

「CT 画像解析による漏斗胸患者の胸郭変形の原因についての後方視的研究」 についてのご説明

● はじめに

漏斗胸は前胸部が陥凹する先天性の胸郭変形で、発生頻度は 0.04～0.3%とされ、札幌医大呼吸器外科では NUSS 手術を中心に手術治療を行っています。胸郭変形の原因は成長の過程で肋軟骨が増えすぎるために起きると考えられていますが、まだ明らかにされておられません。今回、私たちは漏斗胸患者さんの CT 画像を用いて肋軟骨の長さや厚さ、体積を計測し漏斗胸ではない人と比較することで、胸郭変形の原因を究明いたします。

● 研究対象

- ① 2000 年～2017 年 8 月 31 日の期間に札幌医科大学付属病院呼吸器外科で漏斗胸に対して胸郭形成術を行い、術前の CT を撮影している患者さん。
- ② 2000 年～2017 年 8 月 31 日の期間に非漏斗胸患者で札幌医科大学付属病院に受診し、CT を撮影している患者さん。

● 研究内容

既に撮影された漏斗胸患者さんの CT 画像と診療情報を解析し、肋軟骨の長さ、厚さ、体積を測定し、漏斗胸ではない人と比較・検討します。なお、この研究を行うことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

● 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

● 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2000 年 1 月 1 日から 2017 年 7 月 31 日までの間で、本院に入院し CT 撮影した方の中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡下さい。その場合、研究対象から除外されます。しかし、既に学会発表、あるいは医学雑誌への投稿されている場合には除外できない場合があります。

● 研究期間

（病院長承認日）から 2019 年 8 月 31 日まで

● 医学上の貢献

研究成果は漏斗胸の胸郭変形の発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、患者さんの治療と健康に貢献できる可能性があります。

● 問い合わせ先 〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 呼吸器外科

本院研究責任者 宮島 正博

同研究分担者 高橋 有毅

【平日 TEL(011)611-2111 内線 33020 (教室)

休日・時間外 TEL (011)611-2111 内線 33210 (5階北病棟)】